

<症例報告>

B 型肝炎ウイルス genotype D 感染または再活性化を契機に
急性肝不全で死亡した 1 例

林 倫留¹⁾ 山子 泰加¹⁾ 白石 明子¹⁾ 平岡 淳¹⁾ 池本 純²⁾
 大久保啓二²⁾ 今井 祐輔¹⁾ 達川はるか¹⁾ 中原 弘雅¹⁾ 清水 祐宏¹⁾
 谷平 哲哉¹⁾ 宮田 英樹¹⁾ 二宮 朋之¹⁾ 古谷 敬三³⁾ 道堯浩二郎^{1)*}

要旨：症例は関節リウマチでメトトレキサートとステロイド投与中の 85 歳男性。倦怠感、黄疸を主訴に受診。受診 1 年前に HBs 抗原陰性、肝機能検査値も正常であったが、今回受診時は HBs 抗原陽性で、IgM 型 HBc 抗体も陽性であった。高度の肝機能障害がみられ、非昏睡型急性肝不全として治療したが、入院 14 日目に肝不全で死亡した。剖検では線維化を認める肝臓(初期の肝硬変)に高度の肝実質障害を併発した所見であった。入院時 B 型肝炎ウイルス (HBV)-DNA は >9.0 LC/ml, genotype は D で、プレコア領域 (nt1896), コアプロモーター領域 (nt1762, nt1764) には変異がみられた。本例は HBV 再活性化による de novo 肝炎が推定されたが HBV 初感染の可能性も否定できなかった。本邦における genotype D による肝不全死亡例は過去報告がないため、報告する。

索引用語： B型肝炎ウイルス genotype D 急性肝不全 de novo肝炎
IgM型HBc抗体

はじめに

B 型肝炎ウイルス (HBV) は全世界に分布し、その感染者数は、持続感染者数約 4 億人、一生の間に一過性に感染する人は 20 億人と推定されている¹⁾²⁾。HBV はその塩基配列の差異により少なくとも 8 種類の genotype に分類される³⁾⁴⁾。本邦の持続感染者では、genotype C が約 80%、次いで genotype B が 10 数%で、それ以外は稀であったが、近年は急性肝炎例のみならず持続感染例でも genotype A の頻度が増加してきている⁵⁾⁶⁾⁷⁾。一方、四国西北部では genotype D も見られることが知られている。過去に同地区における genotype D 感染者の病像が検討された報告では、四国西北部の genotype D 感染者には肝硬変や肝細胞癌はみられておらず、急

性肝不全で死亡した例の報告もない⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾。今回筆者らは genotype D 初感染または再活性化による de novo 肝炎による急性肝不全で死亡した例を経験したので、報告する。

症 例

患者：85 歳 男性。

主訴：全身倦怠感。

既往歴：関節リウマチ、糖尿病、輸血歴なし、アレルギーなし。

生活歴：飲酒歴 1 日 1 合～1.5 合×30 年(積算飲酒量はエタノール換算約 300 kg)。ここ数年は大量飲酒なし。喫煙歴なし。

家族歴：特記事項なし。両親、兄弟、子供に肝炎歴なし。

現病歴：過去に肝機能異常を指摘されたことはなく、2008 年以降前医で年 1 回程度血液検査をうけていたが、肝機能検査値、血小板値はすべて正常範囲内であった(2008 年 7 月 7 日 T.Bil 0.8 mg/dL, ALT 13 IU/L, 2010 年 2 月 4 日 T.Bil 0.7 mg/dL, ALT 26 IU/L, 2011 年 AST

1) 愛媛県立中央病院消化器病センター

2) 大洲中央病院内科

3) 愛媛県立中央病院検査部病理

*Corresponding author:

c-kmichitaka@eph.pref.ehime.jp

<受付日2013年3月26日><採択日2013年8月29日>